

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年6月4日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892900010		
法人名	株式会社 桑林		
事業所名	グループホーム 江戸崎桑林	ユニット名	
所在地	〒300-0504 茨城県稲敷市江戸崎甲4864-3		
自己評価作成日	平成25年1月8日	評価結果 市町村受理日	平成25年5月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0892900010-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年2月15日	評価確定日	平成25年5月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ol style="list-style-type: none">1、土、日を利用して利用者様に声かけしてカラオケに参加してもらっています。2、利用者様に声かけをしホール集まってもらい職員による紙芝居を行なっています。3、利用者様の必要に応じて、職員が同行して買物や銀行に行けるよう支援しています。4、毎週火曜日に八百屋さんが来て店開きをしているので、楽しみにしている利用者さんもいます。5、水曜日に言語療法来てくれ、個別リハビリや集団レクレーションを行なっています。6、施設内で猫（ター）の事を利用者様が可愛がってます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は近隣にファミリーレストランやショッピングセンター、スーパーなどがある商業地域の中に位置し、職員は立地条件を活かして日常的に外出支援をしたり、年に数回外食を取り入れ、利用者が楽しめるよう支援している。</p> <p>管理者や職員は日々の生活の中で利用者とのコミュニケーションを図りながら利用者の思いを尊重した支援に取り組んでおり、利用者との信頼関係を築いている。</p> <p>賑やかな会話が事業所を活気づけており、利用者は生き生きと暮らしている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員の目につく所に掲示をしている。	「地域密着型共同生活介護サービスの提供を行い、入居者が円滑に地域と密着した生活をおくれるよう支援します」を理念の一つに掲げ、玄関や居間に掲示している。 管理者と職員は理念を日々確認するとともに、週初めや2ヶ月に1回行われるミーティング時に再確認しながら共有し、実践に結び付けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し施設内にボランティアに来てもらったり、近所の美容室に散髪に来てもらっている。敬老会にも参加をしている。	利用者は市主催の敬老会に出席したり地域の祭りに参加し、地域の一員として交流している。 以前は地域の清掃活動に利用者も参加していたが、利用者の高齢化により現在は職員だけの参加となっている。 年1回近隣の中学生の職場体験やホームヘルパー2級養成講座受講の実習生を受け入れ、認知症の理解や支援方法を教えるなど、地域に貢献しながら交流している。 踊りやカラオケ、傾聴などのボランティアを受け入れ、利用者が外部の人々と交流ができるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験を受け入れて認知症の人の理解や支援の方法を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で区長や民生委員などからえた情報でお祭りや節分に参加したりボランティアに来てもらっています。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員、地区長、管理者、介護支援専門員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の生活の様子や行事、外出の報告をしているほか、認知症の人に対する対応の仕方などについて活発に意見交換をし、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時に市役所の方に伝えていきます。	管理者は月1回市担当者を訪問して事業所の実情や利用者の様子などを報告するとともに、市担当者からはメールや電話で研修や情報を得ている。 管理者は利用者がインフルエンザに罹った際に事業所内で何人が罹ると市に報告しなくてはならないかと市担当者に相談するなど、日頃から協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関や勝手口の施錠をしていない。日中自分の好きな時間に外を散歩をしたりしています。一人で立ち上がって歩くと転倒の危険のある利用者には目配りをして待たせないように気を付けています。	管理者と職員は身体拘束をしないケアの実践に向け、研修で身体拘束の弊害を話し合うとともに、職員トイレ付近の壁に「身体拘束のない介護のための指針」のポスターを掲示し、日々確認しながら身体拘束をしないケアの実践に結び付けている。 現在身体拘束はしていないが、医師の診断からやむを得ず身体拘束をしない場合に備え、経過観察記録や検討記録などの書類を整備するまでには至っていない。 夜間は防犯のため玄関を施錠しているが日中は施錠せず、利用者が自由に出入りができるよう支援している。	医師の診断からやむを得ず身体拘束をしない場合に備え、経過観察記録や検討記録などの書類を整備することを提案する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的にミーティングを行ない職員間で虐待行為の再確認や事業所内で見過ごされてないか検討し防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後必要になる可能性もあるので管理者、職員で学んでいく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分に家族の方に説明をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し年に一回アンケート調査を実施している。面会時や家族会の時にも意見を聞くようにしている。日頃から利用者の要望を聴くようにしている。	管理者と職員は利用者や家族等が意見を出し易い雰囲気づくりに努めるとともに、利用者からは日々のふれ合いの中から、家族等からは面会時や年1回開催される家族会で意見や要望を聞く機会を設けている。 無記名の家族アンケートを実施した結果、事業所に対する感謝の言葉のみで意見や要望を汲みあげるまでには至らなかったが、今後も家族アンケートを実施し、意見等の汲みあげに役立てることとしている。 利用者から「事業所内の扉の建てつけが悪くなり開閉しづらい」との意見を受け、管理者は業者から見積もりを取って代表者に伺いを立てている最中である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや朝礼夕礼の時に出てくる職員の意見聞くようにしている。	代表者が年3回から4回事業所を訪れ、直接職員から意見や要望を聞く機会を設けている。 管理者はミーティング時に職員から意見や要望を聞く機会を設けるとともに、日々の支援の中で意見等を気軽に出せる雰囲気づくりに努めている。 管理者は職員から出た「事業所敷地内の空き地を耕して自家菜園として活用し、利用者に自然を育み収穫する喜びを与えたい」との提案を受け、実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望を聞いて行なっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験に配慮し内外の研修を受けるように勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	6ヶ月に一回地域包括支援センターの主催の認知症対応型共同介護事業所連絡会議に参加し問題点などを話し合っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたって本人、家族、ケアマネから情報を集め安心してグループホームで暮らせる様環境作りや声かけに工夫しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設に面会に来た時に家族より要望を聴く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族がグループホームに対して何を求めているか良く話しを聞き利用してもらうようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割持ってもらうことによって支え合う関係を作っている。知識を教てもらうこともある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームでイベント企画して家族の方にも参加してもらう。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や知人が来訪して下さっているので今後も来やすい雰囲気作りを継続していく。	職員は利用者の希望にそって馴染みの店での買い物や図書館、墓参りなどに同行しているほか、利用者が住んでいた自宅周辺をドライブするなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。 家族等の協力を得て馴染みの店での外食やかかりつけの病院などに継続的に行けるよう支援している。 職員は利用者の友人や親戚が遊びに来た際にはお茶を出し、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トランプやカラオケを通じて利用者様同士のコミュニケーションを深めていく。集団が苦手な利用者様には個別で対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談があれば対応していく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で利用者様の意向の把握に努めている。把握したのものに関しては申し送や職員会議にて共有している。	管理者や職員は利用者の生活歴を把握し、日々の生活の中での会話や行動を観察しながら利用者の思いや意向の把握に努めている。 思いを表出できない利用者には入居時のアセスメントを活用したり、日々の生活の中で利用者の興味のあるような話をしながら表情や反応を観察するとともに、家族等から話を聞いて思いや意向の把握に努め、管理者と職員で利用者本位に検討している。 把握した内容はミーティングや申し送り時に報告するとともに、申し送りノートや個人ファイルに記録して全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会の時や家族会の時に家族、友人、親戚の方から話を聞かせてもらっている。日々生活の中で本人からも話を聞くときもある。把握したのものに関しては職員間で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に記録をして職員間で把握している。カンファも行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の要望を聞き、医師、看護師の意見を聞き、職員で話し合って介護計画書を作成している。	介護計画は家族等からは面会時や家族会、電話で意見や要望を聴き反映させるとともに、利用者の意見や要望を取り入れて作成している。 介護支援専門員が利用者や家族等の要望や医師、看護師の意見を取り入れ、職員と相談しながら介護計画を作成するとともに、毎月モニタリングを実施して6ヶ月から1年毎に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時状態に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様とのコミュニケーションをとり気が付いた事を記録する。重要なことは申し送りノートに書いて職員間で話し合い、直ちに実践出来るようにはかる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じては個別に言語リハビリを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	読書の好きな方には、市の図書館に行き本を借りたり、CD、DVDを借りて楽しんでもらっています。稲敷市の招待で敬老会にも参加しています。社協の紹介でボランティアの方も来てくれています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回7名の方は、協力医療機関の医師による往診を受けている。2名の方は希望の病院を受診している。必要に応じて家族や主治医に相談しながら個別に専門医を受診をする。	契約時に、入居前からのかかりつけ医への受診や協力医療機関の医師による受診が可能であることを伝え、利用者や家族等の意向を確認している。 かかりつけ医への受診は家族等の付き添いを基本とし、受診結果は家族等から報告を受けている。 家族等の都合で受診ができない場合は、職員が同行して受診結果を家族等に報告している。 希望する利用者には、月2回協力医療機関の医師による訪問診療を支援している。 週1回協力医療機関の看護師が来訪し、利用者の健康管理をしている。 受診結果はすぐに家族等に電話で報告するとともに、個人ファイルに記録して全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により看護師の定期的な訪問を受けており、きずいたことを相談して伝えている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に紹介状を書いてもらったり、生活サマリーを提供し入院治療がスムーズに行なえるようにしている。入院中は時々病院を訪問し経過を把握し家族と病院と協力し早期退院出来るよう努めていく。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における看取り介護の指針とマニュアルを作成し、これにもとずいて早い段階から本人、家族、職員と話し合いを持ち支援していく。	重要事項説明書に「看取りに関する指針」を明記し、契約時に利用者や家族等に説明している。 「終末期における看取り介護の指針」や「終末期における看取り介護マニュアル」を作成しているが、全職員に周知を図るまでには至っていない。	全職員に事業所の「終末期における看取り介護の指針」を周知するとともに、内部研修を実施して「看取り介護マニュアル」にそった具体的な対応ができるよう体制を整えることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアルから知識を高めていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行なっている。災害時の水と食料の3日分の備蓄を行なっている。避難訓練の参加を近隣住民へ声かけをする。	年2回夜間想定を含む避難訓練や消火訓練を近隣住民の参加を得て実施し、内1回は消防署立会いの避難訓練を実施している。 避難訓練や消防訓練の実施要項を作成しているが、訓練後に反省点や今後の課題について話し合うまでには至っていない。 災害時に備えてサバイバルパンの缶詰や飲料水、紙パンツ、医薬品などを事業所の一部屋に保管している。	避難訓練で明らかになった反省点や課題の解決に向けて話し合って記録に残すとともに、管理者や全職員で共有し、確実な避難誘導ができるよう取り組むことが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の自尊心を傷つけないように配慮しながら声かけを行なっている。	管理者と職員は年1回プライバシー保護に関する研修を実施し、利用者的人格を尊重した対応に努めている。 職員は利用者に対する呼び名や言葉遣いなどに気を配り、利用者が言われたくないことを言わないよう意識するなど、利用者一人ひとりの尊厳を大切に考え支援してる。 重要事項説明書に「個人情報の取り扱い基準」を明記し、個人情報の使用に関しては利用目的を明示して利用者や家族等に確認を得ているほか、個人ファイルは事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報漏洩に留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様は職員に対して自分の希望を話している。急に話されても対応ができない時や希望事態が適切でない時は職員間で話し合い、対応の仕方を検討している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活パターンの把握に努め本人のペースを尊重しながら暮らしの支援を行なっている。ほぼ毎日昼食から起きてくる利用者様もいる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の美容室の方が定期的に来てくれ、利用者様の髪型を聞いてカットをしてくれる。別の散髪に行っている方もいます。職員付き添いで、自分で衣類を買いに行く方もいる。5人の方は自分でその日に着る服を用意をしています。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日の夕食に利用者様の好きな食事を作っています。パンの好きな方は、週に2回朝食に提供しています。利用者様にも配膳、下膳、食器の拭き上げも手伝ってもらっています。	食材は宅配業者からカロリー計算された献立と食材が届き、職員が調理している。利用者はできる範囲で配膳や下膳、後片付けを職員と一緒にしている。職員は利用者と同じテーブルを囲み会話をしながら楽しく食事ができるよう支援している。毎週日曜日は利用者の好きな献立を取り入れ、職員と利用者で買い物に行ったり、一緒に調理をするなど、利用者にとって楽しみな日となっている。利用者の嫌いな献立の時は食材を細かくしたり、代替品に変更するほか、行事食の提供、外食、誕生会にはケーキを用意するなど、食事が楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	信頼のできる業者から食材を購入しており、栄養バランスに配慮された献立になっている。各利用者様の健康状態にあったご飯の量を出している。お腹のすく方は、自分で購入したお菓子、果物、のみものを居室にて食べている。水分量も毎日記録を取っている。水分の摂取量が少ない方には声かけをしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方には、声かけや見守りを行っている。自発的に行なう方が多い。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し必要な方には、トイレ誘導やトイレ介助を行っている。1名だけ夜間のみ転倒の危険が高いため、オムツ対応で行なっています。	職員は排泄チェック表を利用して排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合ったトイレ誘導をしたり、パッドやリハビリパンツを使用して排泄の自立に向けた支援をしている。夜間の場合もトイレ誘導やポータブルトイレを利用し、なるべくおむつを使わないように支援している。失敗した場合はさりげなくトイレや風呂場に誘導するなど、利用者の自尊心を傷つけないよう配慮した対応をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を積極的行なってもらよう声かけをし、服薬によっても便秘にならないようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	おおむね週3回男の方女の方を分けて入浴をする。利用者様の体調や気分に合わせて柔軟に対応している。	風呂は基本的には週3回を目安に男性日と女性日の入浴日を設けているが、利用者の状態や希望にそって入浴日や時間帯を変えたり、シャワー浴や足浴、清拭などで個々に応じた支援をしている。 入浴を拒む利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えて「綺麗になりましょう」と声かけをするなど、工夫して入浴ができるように支援している。 入浴剤を利用したり柚子湯を取り入れ、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様自身のペースに合わせて22時位には就寝している。6時30分位には皆さん起きていられるが、1名の方は10時頃までは横になっていられる。昼からは昼寝もしている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明があり職員はファイルみて把握をしている。バイタルや体調の変化にもきをつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を把握し役割を持っていただいたり好みのレクリエーションを行なっている。利用者様のお誕生日会を行ったり、踊りのボランティアに来てもらったり季節の行事を行なっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望にそって買い物、銀行、図書館、に出かけている。年に2～3回外出食に出かけている。出かけられ時には季節の花などを見にドライブに行く事もある。	職員は利用者一人ひとりの希望にそって買い物に出かけたり、本やCDを借りに図書館に行けるよう外出支援をしている。 天気の良い日には庭に設置されたテーブルとベンチでお茶の時間を楽しむなど、利用者が気軽に外気浴ができるよう支援している。 管理者と職員は利用者の希望を聞きながら年間の外出計画を立て、近隣の公園で桜やチューリップ、菖蒲、菊などを鑑賞したり、ドライブをしながら風車を見物する機会を設け、利用者が四季の移り変わりを肌で感じたり、気分転換ができるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	5名の方は小遣い程度の現金を持っている。そのうちの3名は通帳も自分で管理をしている。4名は小遣い程度の出し入れも難しいので、職員がお金、通帳を管理して必要に応じて出し入れを行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の電話を利用しているかたが2名いる。1名の方が職員の手助けにより携帯を使用して家族と連絡を取っている。以前は手紙のやり取りはあったが、今はいない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	催し物の写真や作品や花を飾り明るい雰囲気作りに配慮している。ホールにはソファを設置しTVを見たり新聞を読んだり自由に過ごせるように配慮している。	居間兼食堂の壁上部全面に利用者が制作した四季折々が感じられるパズルが飾られている。 壁面には行事時の利用者の写真や職員と利用者が一緒に折り紙で制作した季節感が窺える花が飾られ、明るい雰囲気を醸し出している。 居間兼食堂にはテーブルの脇にソファとテレビが配置され、利用者が寛げるよう工夫している。 きゅうりや茄子、ミニトマト、みょうが、さつまいもなどを収穫できる自家菜園は、利用者と職員が共同で作業をしたり、コミュニケーションを図る場所となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の座席やホールのソファで気の合った利用者様どうしが思い思いに過ごしている。一人で読書などをして過ごしている方もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの物品や家具を持ち込んでもらい自分らしい居室が整えられている。	居室にはエアコンやクローゼット、カーテンが備え付けられている。 利用者は家族等と相談しながら使い慣れたタンスや整理箱、テレビ、ベッド、布団、鏡台、ぬいぐるみ、家族の写真など思い思いの物を持ち込み、快適に暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれにあった歩行器、杖を使用していただき、必要な場所には手すりを設置して安全に自由に歩けるようにしている。備品庫には鍵を掛け安全に配慮している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

グループホーム 江戸崎桑林

作成日 平成25年5月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練実施後、反省点について話し合い記録することによって、実際の避難誘導の確実性、安全性を高められる。	避難訓練を実施するだけでなく実際の避難誘導に有効に役立てていく。	避難訓練後は反省点を話し合い記録し回覧する。「災害時の対応」の内部研修を毎年行い、新任の職員も含め内容を確認する。	3ヶ月
2	33	切迫した必要性がないので「看取り介護の指針・マニュアル」の周知、具体的な体制作りができていない。	看取り介護の体制を徐々に整えていく。	「看取り介護の指針・マニュアル」についての内部研修を毎年実施し具体的な対応について話し合う時間を設ける。	5月23日実施
3	6	やむを得ず身体拘束しなくてはならない場合に備え経過観察記録や検討記録などの書類の整備をしておいたほうがよい。	やむを得ず身体拘束を行なう場合は身体拘束禁止規定にのっとって最小限にとどめるよう努める。	やむを得ず身体拘束を行なう場合に備え経過記録や検討記録を整備する。	書式作成済
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。